

教材研究ノート№2-A-17

≪学習問題≫

玉入れを　しました。

赤ぐみの　玉は　34こ　はいっています。

赤ぐみは　白ぐみよりも6こ　多いそうです。

白ぐみは　なんこ　はいっていますか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・求大，求小の問題を，たし算やひき算を使って求めている。

○既習とつなぐ見方・考え方

・数量を，テープ図に表す学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・求小で逆思考の問題は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・長さの学習で，2本のテープを直接比較して比べている。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 赤組の玉と白組の玉では，どちらが多いのかな。

→どちらが多いか，テープ図などで表してみればいい。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:赤組や白組の玉はどちらが何個多いのか，図や式に表して，白組の玉の数の求め方を考えよう。

③個人追究:赤組と白組の玉を，図や式に表して玉の数を求める。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのようにして求めたのか，求め方を説明しよう」

→「違いに目をつけてテープ図に表すと，赤組の方が多い。」

「式では，34－6＝28と表せて，白組の玉は28こ。」

④共同追究後半（思考を深める）

「問題文に“多い”と書いてあるけれど，ひき算でいいのかな。」

→「テープ図では，白組の方が短いからひき算でいい。」

「『白組は』で始まる文章を考えると，『白組は，赤組よりも6個少ない』と表せるからひき算になる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・違いに目をつけて考えれば求められる。

・それぞれの玉の数をテープ図に表して比べてみると，たし算なのかひき算なのか分かりやすい。

ア

イ

　　 こ

　　こ

⑥定着･活用問題

りんごが　18こ　あります。

りんごは　みかんより5こ　多いそうです。

① 上の図でりんごを表しているのは，ア，イのどちらですか。

また，□に当てはまる数をかきましょう。

② みかんは，なんこ　ありますか。

しきを かいて こたえを もとめましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・まず，赤組の数を表すテープ図を提示し，次に白組の数を表すテープ図を見せながら，白組の玉を表すテープ図は，赤組の数を表すテープ図より長いかどうかを考えさせる場面を設ける。

・問題文に“多い”と書いてあるので，ひき算になることに戸惑いを感じる子どももいると思われる。その戸惑いを大切に位置付けて，テープ図と式を関連付けるようにする。

【板書計画】